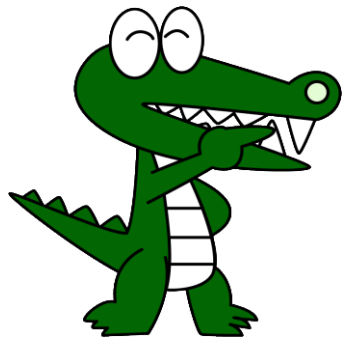


「魅力ある学校づくり」に向けた取り組み

“小中一貫教育”って何だろう？



第2回「魅力ある学校づくり」案に係る
情報・意見交換会

小中一貫教育って？

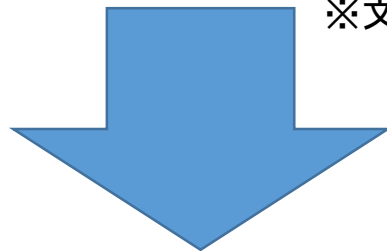
小中連携教育

小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす教育

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育

※文部科学省実施の「小中一貫教育等に関する実態調査」による定義



**小学校と中学校が力を合わせ、9年間を見とおして
子どもの教育を発展的により充実したものに高める**

全国の小中一貫校

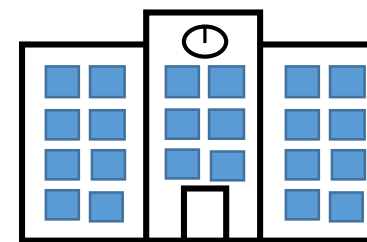
平成26年5月1日現在
小中一貫教育等に関する実態調査より

1. 実施状況

- 実施件数 1130件(小学校2284校、中学校1140校)
- 実施市町村 211市町村(全市町村の約12%)

2. 実施形態

- 施設一体型 148件(約13%)
- 施設隣接型 59件(約5%)
- 施設分離型 882件(約78%)



小中一貫校の様々なタイプ

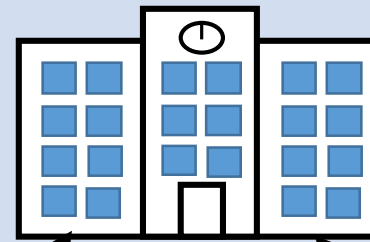
施設一体型



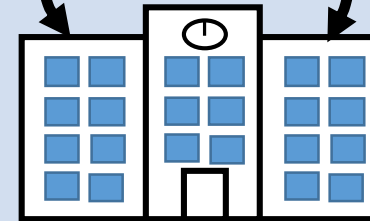
同じ敷地内で、小学校1年生から中学校3年生までが一緒に学校生活を送る。

施設併用型(隣接型)

中学校
(中学生
小学校
5・6年生)

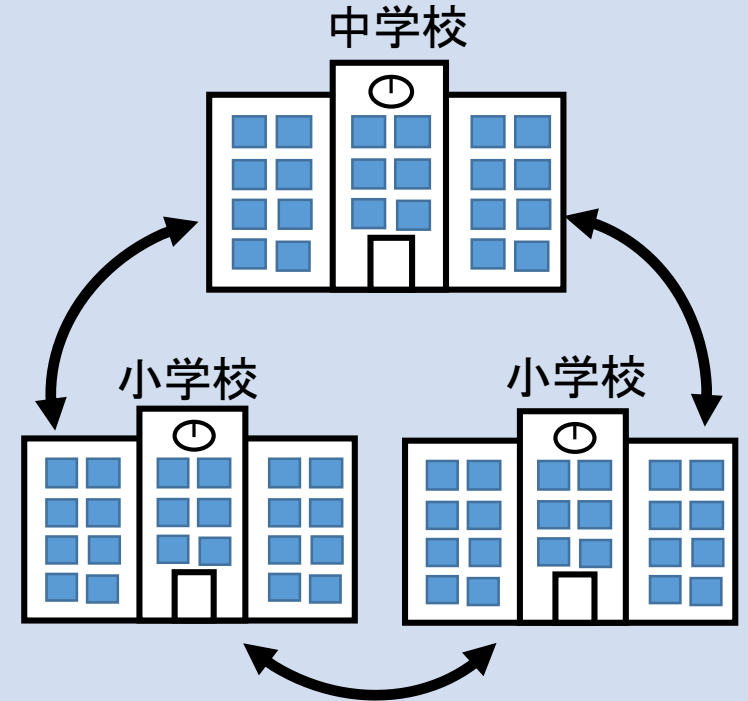


小学校
(1～4年生)



近隣の小中学校で、小学校高学年の全部又は一部が中学校校舎で学校生活を送ったり、週に何時間か中学校で学校生活を送ったりする。

施設分離型(連携型)



小学校と中学校の敷地は別で、連携して教育活動を行う。

小中一貫教育の背景

児童生徒の発達の早期化等に関わる現象

- 昭和25年頃と比較して2～3年ほど体の成長が早い
- 小学校5年生くらいから自尊感情の急激な低下がみられる思春期に

中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中1ギャップ」への対応

- 小学校から中学校に入学すると不安や人間関係・学習や生活の変化になじめず、不登校やいじめ・問題行動などの生活指導上の課題が増加する

主な小・中学校段階間の差異

- ①授業形態の違い(小学校:学級担任制／中学校:教科担任制)
- ②指導法の違い(小学校:丁寧にきめ細かく指導、比較的活動型の学習が多い／中学校:小学校に比べてスピードが速い、講義形式の学習が多い)
- ③評価方法の違い(小学校:単元テスト中心、関心・意欲・態度が重視される傾向／中学校:定期考査中心、知識・技能が重視される傾向)
- ④生徒指導の手法の違い(中学校では思春期を迎える生徒を指導することもあり、小学校と比較して規則に基づいたより厳しい生徒指導がなされる傾向)
- ⑤部活動の有無(中学校から部活動が始まり、放課後のみならず休日の活動を行う機会も増えるなど、子どもの生活が劇的に変化する)

具体的な取り組み内容(例)

(1) 学力や体力向上への対応

① 授業づくり

- ・小学校高学年に段階的に教科担任制を導入
- ・小中学校の教職員合同の授業研究

② 9年間を見とおしたカリキュラムの編成

- ・英語教育(小学校外国語活動と外国語科のつながり)
- ・キャリア教育

(2) 生徒指導上の対応

- ・生徒指導法や指導観、組織体制の相互理解
- ・異学年交流

具体的な取り組み内容(例)

(3) 家庭・地域との連携

- ・学校・家庭・地域が一体となって、9年間の子どもの学びを支える
- ・中学校区のみより一層のまとまりを形成

(4) 学年段階の区切り(例)

小学校						中学校			
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	
前期(定着期)				中期(活用期)			後期(発展期)		
基礎・基本の習熟を図り、学校や家庭での学習習慣を定着させる時期				基礎・基本を活用し、自ら考え判断する力、表現する力をつける時期			基礎・基本を生かし、学んだ内容や学び方を活用し、発展させる時期		

※小学校・中学校の6・3制を変更せずに、指導の重点を定めるもの
(例) 4-3-2 、 5-4 、 4-5

小中一貫教育にみられる成果

平成26年5月1日現在
小中一貫教育等についての実態調査より

学習指導上の効果

- 学習意欲や学習習慣の定着
- 授業の理解度の向上
- 学習に悩みを抱える児童生徒の減少児童

生徒指導上の効果

- ★いわゆる「中1ギャップ」の緩和（不登校やいじめ・暴力行為等の減少、進学に不安を覚える生徒の減少）
- 学習規律・生活規律の定着
- 自己肯定感の向上、おもいやりや助け合いの気持ちの育成
- コミュニケーション能力の向上

課題として挙げられていること

実施に伴う課題

- 時間割調整、小中合同行事の内容
- 小学校間の取り組みの差
- 打ち合わせや交流のための移動時間の確保
- 教職員の負担感・多忙間の解消

人事・予算面に関する課題

- 教員免許と人事
- 必要な予算

児童生徒に与える影響に関する課題

- 児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮
- 中学生の生徒指導上の問題の小学生への影響
- 小学校高学年のリーダー性や主体性の育成

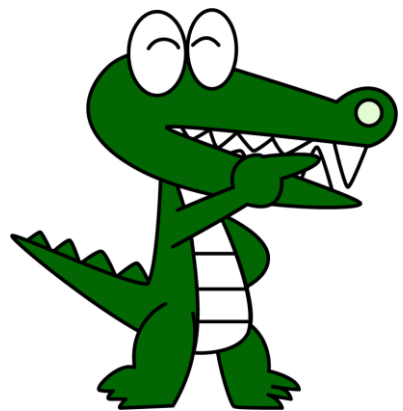
教職員の意識改革等に関わる課題

- 成果や課題の可視化と共有、共通認識

指摘される課題への対応

児童生徒に与える影響に関する課題

- 児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮
 - ・多様な形態での異学年交流
 - ・より多くの教職員が児童生徒と関わり、多面的な評価
- 中学生の生徒指導上の問題の小学生への影響
 - ・異学年交流によって、生徒指導上の問題が減少
 - ・上級生・下級生関係の改善
- 小学校高学年のリーダー性や主体性の育成
 - ・学年段階の区切りに対応した学校行事の分割実施
 - ・校舎やフロアの区分による成長段階の演出
 - ・各行事の中で高学年がリーダーシップを発揮する機会の設定



<問い合わせ先>

豊中市教育委員会事務局 学校教育課 計画係

TEL:06-6858-2705 / FAX:06-6846-9649

E-mail: kyokeikaku@city.toyonaka.osaka.jp

